

大阪府安威川の治水を考える流域連絡会TEL 072-624-5461

「流域連絡会」は大阪府に地質の問題点徹底究明を申し入れ

大阪府が安威川ダム本体工事入札結果を公表 特別重点調査基準価格を1千万円上回る243.1億円で大林組JVが落札

2012年11月30日、「国土研調査団」と「流域連絡会」は大阪府に安威川ダム計画の地質問題に関する見解（第一次）を発表して、回答を求めました。その内容の第1の問題点は、馬場断層の評価です。第二の問題点は、ダム堤体直下に存在する3系統28本の断層の内の、主要な断層の評価と馬場断層との関連です。第三の問題点は、断層沿いの亀裂や破砕部の存在です。第四の問題点は、車作の一部が地すべり地である可能性についてです。

大阪府は、以上の見解と指摘に対して、回答するとしながらも、誠意ある回答をしていません。

「流域連絡会」は、こうした住民の疑問や危惧に対して、大阪府の誠意ある回答を引き出し、流域住民に返していきたいと考えています。

業界新聞の報道によると「大阪府は11月14日に入札し低入札価格調査のため保留していた「安威川ダム建設工事」（WTO案件）の落札者を、243億1000万円で大林組・前田建設・奥村組・日本国土開発JVに決め、12日に公表した。技術提案型・標準の総合評価方式を採用しており、技術評価点は125で総合評価点は0.5141。14年2月府議会で仮請負契約議案が承認されると、ダムが計画された北摂豪雨が発生した1967年から47年後の14年度末にダム本体に着工することになる。2021年2月26日の完成を目指す。同工事の予定価格は312億7000万円、低入札調査基準価格は274億1000万円、特別重点調査基準価格は243億円。入札参加した4JVとも低入札調査基準価格を下回った。特別重点価格未満だった第1位者（240億7000万円の大成建設・大豊建設・森本組JV）と第2位順位者（241億円の清水建設・西松建設・銭高組・株木建設・久本組JV）は、特別重点調査を受ける意向がなかった。鹿島・飛島建設・竹中土木・大本組JVは入札金額が250億1000万円で、技術評価点119.0、総合評価点0.4758だったため、大林組JVが落札者に決まった」さらに大阪府は「同ダムは茨木市生保、大門寺、安威に設ける中央コア型ロックフィルダムで、堤高76.5メートル、堤頂長337.5メートル、堤体積222万5000立方メートル。同工事では基礎掘削工、基礎処理工、堤体工を施工する。使用資機材はロック材など（外部ロック、内部ロック、トランジション、フィルター、198万5700立方メートル）、セメント（2万7815トン）、骨材（細骨材、粗骨材、25万3878トン）。同ダムの集水面積は52.2平方キロ、湛水面積80.7ヘクタール。安威川ダムの整備と河川改修で、時間雨量80ミリ程度の大雨で想定される被害（氾濫面積23.6平方キロ）を防ぐ方針」としてしています。

詳しくはホームページを
アドレス<http://aigawachisui.sakura.ne.jp/>

